



## 目的別 / 1日研修

Revised

# 危機発生時における マスコミ対応

模擬緊急記者会見から体験的に学ぶ

### ➤ 本研修の概要とねらい

不祥事発生時の適切なマスコミ対応(含:ネットのニュースメディア対応)について学び、自治体に対する不信感を払拭するためのスキルを身につける。

### ➤ 主なコンテンツ

クライシス・コミュニケーションの事例紹介、クライシス発生時のマスコミ対応、クライシス・コミュニケーションのPDCAサイクル、など(詳細は裏面のタイムテーブルをご参照ください)。

### ➤ 演習/実習の内容

模擬緊急記者会見……「ポジション・ペーパー」を作成し、模擬緊急記者会見をおこなう。演習の様子をビデオで撮影し、映像を確認しながら振り返る。

### ➤ 受講対象(推奨)

管理監督職

### ➤ 講師からの一言

事件・事故あるいは災害時における報道対応は重要です。その良し悪しにより世間の評価は決まります。記者発表の際、資料のわかりにくさやたった一言の失言のせいで、新聞やテレビ、週刊誌で酷評されたり、ネットで炎上騒ぎが起きたりします。そのような“報道対応の失敗”を避けるために本講座をご活用ください。講義と実習を通して、よりよい資料の作り方や記者への説明の仕方、質問への回答方法等を身につけていただけます。



一般社団法人 日本経営協会講師  
宇於崎 裕美(うおざき ひろみ)

PRコンサルティング会社で国内外の企業と官庁に対する、危機管理広報を含むパブリック・リレーションズ(PR)活動全般の企画・実施を手掛ける。現在、独立し、広報とマーケティング、リスクマネジメントに関するコンサルティング・サービスを提供。

内閣府、総務省等中央省庁、民間企業、自治体、大学等にて危機管理広報、緊急時の報道対応演習(メディアトレーニング)などの研修を多数実施。

著書に『不祥事が起こってしまった！一企業ブランド価値を守るクライシス・コミュニケーション』、『クライシス・コミュニケーションの考え方、その理論と実践』、『人と組織の心理から読み解くリスク・コミュニケーション』、『リスクコミュニケーションの現場と実践』などがある。

現在、横浜国立大学リスク共生社会創造センター非常勤講師、東京消防庁広報広聴アドバイザー、消防大学校講師、安全工学会、失敗学会、日本広報学会、人工知能学会の会員。

本講師の他の研修

- メディアトレーニング
- 不当要求、クレーマー、モンスター対応
- 広報・PR

# 危機発生時におけるマスコミ対応

## 1日研修タイムテーブル案

研修テーマ	主なコンテンツ
1. リスクマネジメントとしての報道対応 2. クライシス・コミュニケーションとリスク・コミュニケーション 3. 今なぜクライシス・コミュニケーションか 4. クライシス・コミュニケーションの事例紹介 (1) 最近の事例－成功例と失敗例 (2) 成功の秘訣、失敗の原因 5. クライシス発生時のマスコミ対応、ネット対応 6. クライシス・コミュニケーションのPDCAサイクル	☞ 目的と本質、リスクマネジメントのなかでの位置付け リスク・コミュニケーションとの違い  ☞ ステークホルダーの意識変化、市民が求めるもの  ☞ 騒がれた原因、高く評価された理由  ☞ 報道対応の基本について学ぶ。
昼食休憩	
7. 実習：メディア・トレーニング (1) グループ討議 (2) ポジション・ペーパー作り (3) 模擬緊急記者会見(ビデオ撮影あり) (4) ビデオを再生しながら講評 (5) 全体ディスカッション	☞ 職員の不祥事や、事故発生など、想定シナリオに基づき 「模擬緊急記者会見」演習をおこなう。

### ■本研修を受講した研修生の感想

☞ 演習内容を撮影したビデオでは、自分の対応が市民の目にどのように映るのかわかり、自分で思っているほど上手くできていないことに少しショックを受けました。

### ■本研修コーディネーター担当者からのワンポイントメッセージ

☞ ビデオ撮影をおこないながらの「模擬緊急記者会見」演習では、危機発生時におけるマスコミ対応を体験的に学習いただけます。

## 本研修に関するお問い合わせ

一般社団法人 日本経営協会 関西本部  
〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4(大阪科学技術センタービル)  
電話 06-6443-6925 FAX 06-6441-4319  
URL <http://www.noma.or.jp>